

(様式)

令和4年度 学校評価書

学校名: 静岡市立長田西中学校

大項目	中項目	グループ校の評価指標	自己評価	改善策(来年度の目標設定, 具体的な取組目標)	
静岡型小中一貫教育における特色ある教育活動	【視点1】 学校の教育目標をグループ校で共有する	自分を含め 共に生きる ↓ よく考えよう 進んで実行しよう	① (独自)「目的の達成のため、自分で考え、進んで行動している」児童生徒の割合【80%以上】 (学校説明)3年生は2年生時と比較すると肯定的な答えの割合が増加している。卒業後の進路という明確で具体的な目標について考えていたり、様々な活動で中心となり目標に向けて集団を導いたりしていたこともAの割合が増加している理由と考えられる。一方で、学年が下がるとAの割合は低下している。保護者についても同様の傾向があり、入学時から計画的に自己肯定感を高めるよう進めていきたい。また、本年度は昨年度と比較すると、活動によってはコロナ前の状況に戻った面もあったが、依然コロナウイルスの影響により学校の教育活動を思うように進められないこともあった。来年度はコロナ以前の活動に徐々に戻していくことを前提に計画し、生徒が主体的に活動する場を確保できるようにしていきたい。	B	コロナ感染症も落ち着きはじめており、新しい教育活動に少しずつ変更していく予定である。その際、生徒が全面に立ち、考え実行するよう活動を計画することで、生徒の主体性が育成されるように計画する。また、生徒がより達成感を実感できるよう、目標を意識して活動させる。
	【視点2】 9年間の連続性、系統性を強化した教育課程を編成・実施する	わかりやすい授業づくり	② (独自)「UDの視点による授業改善に取り組んでいる」教員の割合【80%以上】 (学校説明)「学習課題」や「学習課題」を色分けした板書を心がけ、生徒が今、何を考えなければならないのかを明確にしたり、授業の流れや生徒の思考がわかったりするような板書を心がけて授業をおこなった。また、学習に関わる資料の提示や作業の手順、ポイントとなる用語などをテレビ画面に表示したり、chromebookを活用した関わりや調べものをしたりして、誰にとっても学びやすい環境作りを努めた。	A	生徒がよりわかりやすさを感じたり、授業に意欲的に取り組んだりできるよう、どのような学習場面でのようにICTを使うことが適切なのか、教科ごとに検討したり生徒の実態に合わせて活用したりするための研修をすすめていく。
		よりよい人間関係づくり	③ (独自)「場に応じた振る舞い方をしていると思う」児童生徒の割合【80%以上】 (学校説明)学校生活の安定という面では、落ち着きがあり、服装や生活態度等についても大きな乱れは見られない。昨年度に引き続き、全体的に教育活動が円滑に進んでいる。しかし、「場に応じた振る舞い」については更に向上できる面があり、特に丁寧な言葉づかいや一部の登下校のマナー違反は未だ課題である。	A	学校生活から日常生活につなげていくための「人とかかわるうえで必要になる力」を向上させていくために来年度も引き続き、SSTの授業を計画的に行う。また、日頃の授業や学校生活の中で意識的に相手の気持ちを考えさせる場面を設定していく。
	【視点3】 教職員の協働、児童生徒の交流	あいさつあふれる学校づくり	④ (独自)「自分から進んであいさつしている」児童生徒・教職員の割合【80%以上】 (学校説明)生徒会本部や生活専門委員会を中心にあいさつ運動等を行ってきた中で、あいさつを返す生徒は多かったが、自ら進んであいさつする生徒をさらに増やしたい。また、学校評価アンケートの結果を見ると、生徒や教員の肯定的意見の割合が6割程度と低かったためB評価とした。	B	今後も生徒会本部や生活専門委員会を中心にあいさつ運動を行ってきたい。また、小学校やPTA、地域とも協力をして、あいさつ活動を盛り上げていきたい。
		よりよい人間関係づくり	⑤ (独自)「互いに認め、励まし、大切にしよう」児童生徒の割合【80%以上】 (学校説明)SSTの授業や道徳の授業を中心に、各教科や部活動なども通して日々の生活の中で指導している。今年度は体育祭に加えこ数年中止していた合唱発表会も行われ、生徒が仲間の頑張りを認めたり、よりよい活動にしようとして互いに励ましかったりする場面が多々見られた。	A	学校生活をはじめ、日常生活における「人とかかわるうえで必要になる力」を向上させていくために来年度も引き続き、SSTの授業を計画的に行う。また、道徳の授業を中心に、生活の中で意識的に相手の気持ちを考えさせる場面を設定する。
【視点4】 地域との連携	おさだ学	(独自)「地域の人・もの・ことを取り入れた授業」で地域のことがわかる児童生徒の割合【80%以上】 (学校説明)3年生については「長田地区をよくする目標を考えよう」、2年生は「長田地域をよくするためのアイデアを考えよう」、1年生は「自分の出身小学校の学区を紹介しよう」をそれぞれテーマに地域を題材として学習を行った。コロナウイルスの影響もあり十分とはまだ言えないが、「おさだ学」の取組を進めることができた。生徒も地域の防災訓練へ積極的に参加するなど地域の一員として活動する姿もあった。	A	来年度も生徒が地域を知り、社会参画の意識が高まるよう継続して指導していくとともに、地域の方々から学校の活動についてより知っていただけるよう、土曜日に学校公開日を設け、多くの方々から学校の様子を参観していただけるようにする。	
学校環境	業務改善	⑦ (独自)校務支援システムやオンラインシステムを効果的に活用し、効率的な会議の運営や情報交換、グループ校の連携等が進んだと回答する職員の割合【80%以上】 (学校説明)校務支援システムを使った打合せやアンケートなどで会議や業務の効率化につながった。また、情報交換や連絡のために電子メールも積極的に活用されている。導入されたchromebookでのアンケートも行われるようになり、業務の効率化も進んだ。今後は教職員のさらなる活用のための研修も必要である。	B	定期的に来校しているICT支援員からchromebookの具体的な活用方法についてアドバイスをもらい、職員に活用方法について周知するようにしていく。またアンケートにも積極的に活用することで、効率化を目指していく。	
グループ校の軸となる取組・活動		グループ校の評価指標	自己評価		
ソーシャルスキルの上向 あいさつ自慢の学校づくり		⑧ (指標1)「学校に行くのが楽しいと思う」児童生徒の割合【80%以上】 (学校説明)保護者と教員ともに昨年度同様に肯定的な回答が高かった。生徒についても肯定的な回答の割合が高まった。少しずつではあるが、行事等コロナ禍前の状況に戻していることも一因にあると考えられる。また、コロナ禍の経験を踏まえ、体育祭や生徒会活動などの場面では、chromebookを使って工夫した活動を行うなど、学校生活を充実させようという前向きに取り組む生徒も姿も数多く見られた。	A	生徒の考えを活かし、主体性が発揮される活動となるようにすることで、生徒の自己肯定感を高めていきたい。また、学習面では生徒がよりわかりやすさを感じたり、授業に意欲的に取り組んだりできるような工夫した授業をすることで、生徒が学習面でも充実感を味わえるようにする。	

大項目	中項目	評価指標	自己評価	改善策(来年度の目標設定, 具体的な取組目標)
各評価の 各 校 の 静 岡 型 小 中 一 貫 教 育 に お け る 特 色 あ る 教 育 活 動	重点目標 よく考えよう 進んで実行しよう	⑨重点目標・行動の目当てを意識して生活している。 (学校説明)落ち着いて学習に取り組んでいる状況であり、学習に関する項目では80%以上の生徒が肯定的な回答であった。清掃については、生徒は肯定的な回答が多かったが、教職員については改善の必要があると回答する者が多く、教職員と生徒の認識に大きな違いがある。今後生徒の取組の質を向上させていく必要があると考える。	B	学習は落ち着いて取り組む雰囲気が出てきているので、それを継続させ、さらに成果が上がるよう、生徒がよりわかりやすさを感じたり、意欲的に取り組んだりできる授業について、教科ごとに研修をすすめていく。また、清掃については生徒会中心に質の改善に向けて取り組むようにする。
	生徒指導	いじめの早期発見、状況把握と対応の適切化 (学校説明)年3回の市一斉の悩み・いじめアンケートや年4回のステージごとの自己評価カードによる振り返り、年2回前期後期の終わりに学校生活全般を振り返るアンケートを実施しており、個人の課題や学年の課題を明確にしている。また、あゆみ(連絡帳)の日記や日頃からの生徒との会話から気になる生徒の様子を担当が把握し、悩みの早期発見に努めている。さらに、年3回の教育相談、三者面談等で生徒をはじめ、保護者の相談にも丁寧な対応ができる体制を整えている。このような指導の積み重ねが、いじめの未然防止、早期対応に繋がっている。しかし、「困ったときに生徒や保護者が気軽に相談できる教師やSC等がない」という学校評価アンケートの回答が34%近くあり、教師と生徒、保護者の三者の意識のずれが生じていることから生徒や保護者が相談しやすい環境づくりが、今後の課題である。	B	来年度も今まで取り組んできていることを継続し、職員全体で共通理解して取り組んでいく。また、年度初めから保護者が気軽に相談してもらえるように、職員からの声かけや全体に対するアナウンスをするなど情報を積極的に発信していく。
静岡型小中一貫教育における共通となる教育活動	学力の状況 (全国学力・学習状況調査)	小学校 国語・算数ともに基礎・基本的な問題についての理解は高い。課題として、国語においては立場を明確にして自分の考えを表現することが弱い。作文や話し方のスキルなど、知識・技能面での底上げはもうらんだが、学校生活全般において意見を交流したり合意形成を試みたりする機会が不十分であると考察する。算数では、知識・技能を生かして思考したり問題を解決したりする活用面が弱く、教科書やドリルの基本的な学習だけに終始せず、日々の授業のなかで算数的活動を大切にすることを感ずる。理科の結果については一極化の傾向が依然目立つ。		改善策(来年度の目標設定, 具体的な取組目標) 【国語】「書く場面を意図的に設定すること」をより意識的に、記述式の設問にも苦手意識が高まらないようにしていく。語彙を増やしその言葉の使い方(表現方法)を身につけさせるためにも、良書の紹介や朝読書の時間を有効に活用し、質の高い文章に触れたり生徒の読書量を増やしたりするよう努める。読み取った内容の根拠を説明させるなどして、自分の考えや思いを適切に表現する力を高めさせたい。【数学】既習事項の確認を丁寧に行っていく。事象が成り立つ理由を明確な根拠をもって数学的に説明する力を今以上に身につけていくために、「なぜこうなるのか」の理由を考えたり、説明したりする力を身につけていく。【理科】自然現象や最近の科学の話題など、理科の学習と身近な事象とをつなげていくことを大事にしていく。1、2年生において基礎をしっかり学習し、3年生では与えられた課題を解決するための実験や観察方法を考える力を身につけていく。
	体力の状況 (新体力テスト、全国体力・運動能力、運動習慣調査)	小学校 長座体前屈(柔軟性)は全国平均より高い。ボール投げ(投力)は前年度に比べ、全国平均よりやや低い結果となったが、改善傾向がうかがえた。しかし、中学年における上体起こし(筋力)と20mシャトルラン(持久力)と立ち幅跳び(跳力)が全国平均より低い結果となった。	中学校 新体力テストの結果から、本校の良い点として、男女ともに、「ボール投げ」と「長座体前屈」において県・全国平均を上回ったことが挙げられる。今年度の体育の授業において、ハンドボールやソフトボールなどの投運動や授業の導入時にストレッチなどを実施したことで好記録に繋がったと考えられる。課題としては、男女ともに、「反復横跳び」と「20mシャトルラン」において県平均と全国平均を下回ったことが挙げられる。これは昨年度に引き続き課題のため、敏捷性や持久力を高める運動を積極的に取り入れ、来年度の記録向上に努めていきたい。また、他種目においても男子生徒の記録の低下が見られる。より意欲的に運動に取り組めるよう、学習形態や個人の目標設定をするなどの工夫を講じていきたい。	
生徒指導の状況 (学校いじめ防止基本方針)		(学校説明)生徒一人ひとりの「居場所づくり」と「絆づくり」を重点目標に指導にあっている。具体的な方針の1つ目は「気持ちよく生活するための人的環境づくり」で、具体的な指導項目はあいさつ、時間、服装、正しい言葉遣いである。2つ目は「生活向上を意識化するための物的環境づくり」で、指導項目は清掃をしっかりとすることである。また、生き方指導の基盤づくりとして自己受容を促し主体的な行動力を育てる指導を学級活動、集会、行事、生徒会活動、部活動等で行っている。スクールカウンセラーや教育相談員などによるサポートもしている。地域ボランティアの読み語り、生徒による地域ボランティアへの参加など地域と連携して指導にあっている。校内では、いじめ対策組織を設置し、年3回の悩み事アンケートの実施や生徒の日記を活用した日々の生徒の様子把握、年3回の教育相談、三者面談の実施など、すべての生徒を対象に、いじめに向かわせないための未然防止・適切な対応に取り組む、相談できる体制を整えている。		改善策(来年度の目標設定, 具体的な取組目標) アンケート調査や教育相談等組織的にきめ細かく取り組むことで効果が上がっている。学校は現在落ち着いている状態だが、いじめは一生の傷となるので毎日の生活の中で教員が注意深く観察し、対応してほしい。